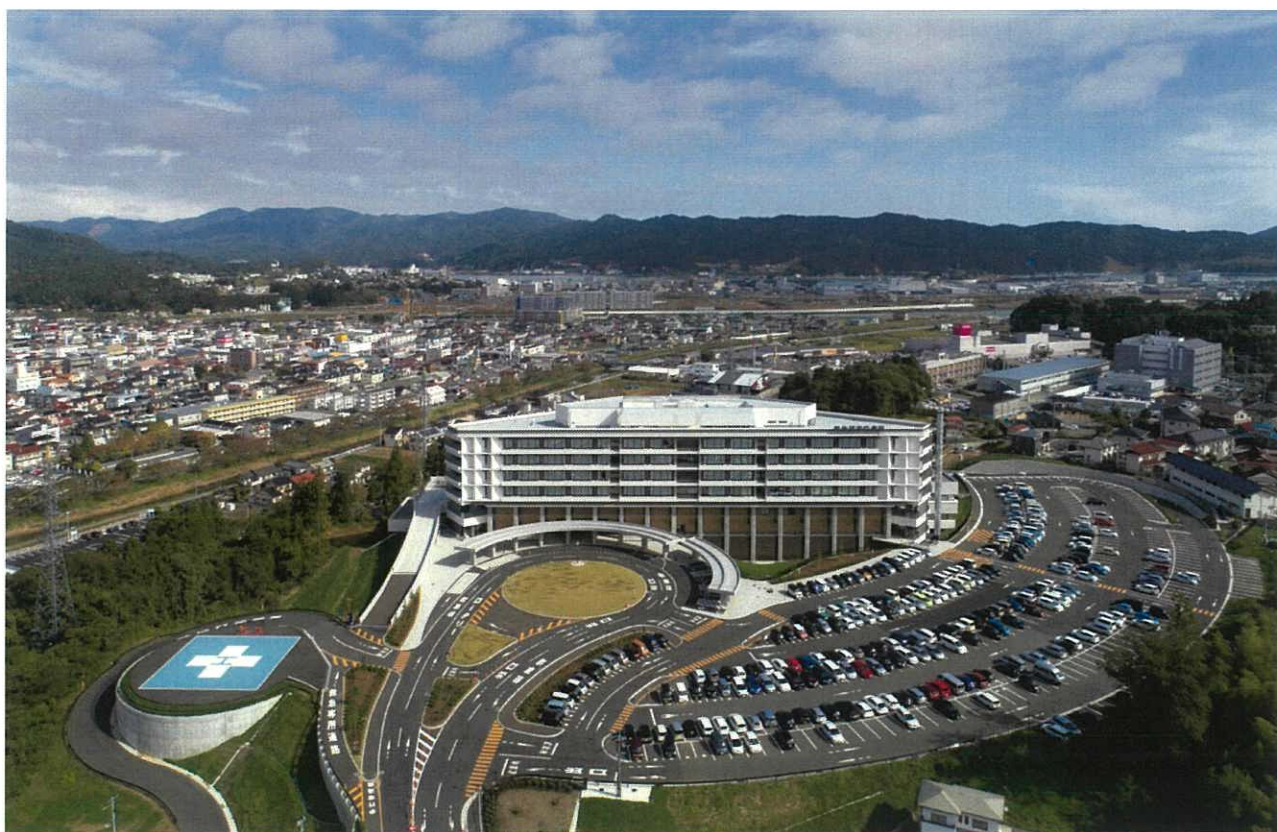


2026 年 4 月開始

気仙沼市立病院群 臨床研修プログラム

(Kesennuma City Hospital)



2025 年 4 月 1 日

気仙沼市立病院臨床研修管理委員会

URLアドレス <http://www.kesennuma-hospital.jp/>

目 次

気仙沼市立病院 概要	1
研修施設	7
臨床研修プログラム 概要	8
臨床研修医採用選考申込書	15

病 院 概 要

I 沿革

明治13年 5月	県立宮城病院（現 東北大学病院）の気仙沼分局として開設
明治17年10月	県立宮城病院の廃止に伴い郡立気仙沼病院となる
明治32年 3月	気仙沼町他七か村病院組合を組織化し一部事務組合運営となる
昭和 7年11月	気仙沼市河原田に新築移転
昭和39年 5月	病院を気仙沼市字田中 184 番地に新築移転 「公立気仙沼総合病院」に改称（病床数 350 床）
昭和43年 9月	公立気仙沼高等看護学校設置
12月	救急告示病院の指定病院となる
昭和45年 2月	第2期増築工事完成（病床数 471 床） 小児病棟・リハビリテーション室増築 ICU・CCU設備整備、放射線治療室・浴治療室新築
昭和49年 5月	公立気仙沼高等看護学校校舎新築
昭和51年 6月	第3期増築工事完成（病床数 502 床） 透析センター・病棟増築
昭和58年10月	第4期増改築工事完成 管理棟・X線部・救急診療室増築 診療棟・病棟・薬剤部・検査部・手術部・厨房改築
昭和62年12月	全国自治体病院開設者協議会及び全国自治体病院協議会より、 昭和62年度優良病院として表彰される 病床数増床（病床数 523 床・13 診療科）
平成 7年 2月	第5期増築工事完成（病床数 530 床） 病歴室・透析センター・内視鏡室・外来・病棟 売店・食堂・理髪・会議室
平成 8年 3月	第5期改築工事完成、高気圧酸素装置導入
平成 9年 3月	災害拠点病院・地域災害医療センターに指定される
平成10年 2月	循環器血管撮影システム導入
平成11年11月	感染症新法施行に伴い第2種感染症指定医療機関として指定 伝染病病床 13 床廃止し、新たに感染症病床 4 床設置 （一般病床 497 床・結核病床 20 床・感染症病床 4 床 計 521 床）
平成12年 4月	院外処方箋の実施
平成13年 1月	薬剤科改修工事（薬品倉庫等の統合ほか）完成
平成13年 3月	リハビリテーション科の改修工事（作業療法室新設） MRI（核磁気共鳴診断装置）1.5テスラの新型に更新
平成13年 4月	公立気仙沼看護専門学校に名称変更
平成14年 3月	リニアック更新に伴うX線室改修工事完成
平成15年10月	臨床研修病院（単独型）に指定される
平成16年 3月	宮城県地域周産母子医療センターに指定される
12月	末日をもって、一般病床 20 床減床、結核病床を廃止 （一般病床 477 床・感染症病床 4 床）
平成18年 1月	病棟再編により病床数減床 （一般病床 447 床・感染症病床 4 床）
平成18年 3月31日	構成市町の合併により「気仙沼市立病院」となる
平成20年 9月	管理型臨床研修病院に変更

平成22年 4月	地域医療連携室を設置し登録医制をスタート
平成26年 4月	病棟再編により病床数減床 (一般病床 400 床・感染症病床 4 床)
平成29年10月	病院を気仙沼市赤岩杉ノ沢8番地2に新築移転 (病床数 340 床) (一般病床 288 床, 回復期リハビリテーション病床 48 床 感染症病床 4 床)
令和 3年 4月	地方公営企業法全部適用
令和 6年 4月	医療機能再編により気仙沼市立病院附属本吉医院と一病院一診療 所の新体制となる 一般 336 床 (回復期リハビリテーション病床 48 床, 地域包括ケ ア病床 50 床含む) 感染症 4 床

II 位置及び環境

当院は宮城県の最北端に位置し、二次医療圏の人口は約 10 万人となっており、宮城県以
外の岩手県南地域からの患者さんも多く、仙台市から遠いこともあり地域完結型の医療を目
指しています。

III 概況

- 1 所在地 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢8番地2
- 2 区分 救急告示病院
災害拠点病院 (宮城県地域災害医療センター)
臨床研修病院
宮城県地域周産期母子医療センター
宮城県高次脳機能障害地域支援拠点病院
- 3 病院長 大友 浩志
- 4 病床数 一般 336 床 (回復期リハビリテーション病床 48 床・地域包括ケア病床 50 床含む)
感染症 4 床
- 5 診療科 20 診療科
内科・呼吸器内科・消化器内科・循環器内科・小児科・心療内科・外科・整形外科・
形成外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・リハビ
リテーション科・放射線科・麻酔科・歯科口腔外科・病理診断科
- 6 敷地面積 52,247. 53 m²
- 7 延べ面積 28,944. 06 m²
- 8 指定機関 保険医療機関
労災保険指定医療機関
生活保護法指定医療機関
結核予防法指定医療機関
原子爆弾被爆者一般疾病指定医療機関
更生 (育成) 医療
母体保護法指定医
結核予防法 (34 条) 指定

9 認定等事項

医療DX推進体制整備加算、初診料（歯科）の注1に掲げる基準、歯科外来診療
医療安全対策加算1、歯科外来診療感染対策加算2、一般病棟入院基本料（急性期
一般入院料2）、救急医療管理加算、超急性期脳卒中加入算、診療録管理体制加算3、
医師事務作業補助体制加算1（20対1）、急性期看護補助体制加算；25対1看護補
助者5割未満（看護補助体制充実加算1）、看護職員夜間16対1配置加算2、療養
環境加算、重症者等療養環境特別加算、栄養サポートチーム加算、医療安全対策加
算1（医療安全対策地域連携加算1）、感染対策向上加算1（指導強化加算）、患者
サポート体制充実加算、褥瘡ハイリスク患者ケア加算、ハイリスク妊娠管理加算、
後発医薬品使用体制加算1、データ提出加算2、4、入退院支援加算1（入院時支援
加算）、認知症ケア加算3、せん妄ハイリスク患者ケア加算、地域医療体制確保加
算、協力対象施設入所者入院加算、回復期リハビリテーション病棟入院料1、地域
包括ケア病棟入院料2、外来栄養食事指導料の注2に規定する施設基準、糖尿病合
併症管理料、がん性疼痛緩和指導管理料、がん患者指導管理料Ⅰ、がん患者指導管
理料Ⅱ、がん患者指導管理料Ⅲ、婦人科特定疾患治療管理料、二次性骨折予防継続
管理料1、二次性骨折予防継続管理料3、院内トリアージ実施料、夜間休日救急搬
送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算、外来腫瘍化学療法診療料1、
連携充実加算、ニコチン依存症管理料、ハイリスク妊産婦共同管理料（Ⅰ）、がん
治療連携指導料、薬剤管理指導料、医療機器安全管理料1、歯科治療時医療管理料、
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2、在宅療養
後方支援病院、BRCA1/2 遺伝子検査、HPV 核酸検出及びHPV 核酸検出（簡易ジ
ェノタイプ判定）、検体検査管理加算（Ⅱ）、時間内歩行試験及びシャトルウォーキ
ングテスト、補聴器適合検査、コンタクトレンズ検査料1、内服・点滴誘発試験、
CT 撮影及びMRI 撮影、抗悪性腫瘍剤処方管理加算、外来化学療法加算1、無菌製
剤処理料、心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）、脳血管疾患等リハビリテー
ション料（Ⅰ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）、呼吸器リハビリテーション料
（Ⅰ）、がん患者リハビリテーション料、歯科口腔リハビリテーション料2、人工
腎臓（慢性維持透析1）、導入期加算1、透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過
加算、下肢末梢動脈疾患指導管理料、ストーマ合併症加算、CAD/CAM 冠及びCAD/
CAM インレー、皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算、緑内障手術（流出路再
建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）、乳がんセンチネルリ
ンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）、食道縫合術（穿孔、損傷）（内
視鏡によるもの）、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡に
よるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、
腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、
膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膣腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、ペー
スメーカー移植術及びペースメーカー交換術、大動脈バルーンパンピング法（IABP
法）、腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群
郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、
腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出
術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術、腹
腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術、早期悪性腫
瘍大腸粘膜下層剥離術、膀胱水圧拡張術、医科点数表第2章第10部手術の通則の
16に掲げる手術、輸血管理料Ⅱ、輸血適正使用加算、人工肛門・人工膀胱造設術前
処置加算、胃瘻造設時嚥下機能評価加算、麻酔管理料（Ⅰ）、高エネルギー放射線
治療、保険医療機関間の連携による病理診断、保険医療機関間の連携におけるデジ
タル病理画像による術中迅速病理組織標本作製、病理診断管理加算1、悪性腫瘍病
理組織標本加算、口腔病理診断管理加算1、クラウン・ブリッジ維持管理料、看護

職員処遇改善評価料，外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ），歯科外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ），入院ベースアップ評価料，入院時食事療法（Ⅰ），酸素の購入単価，

10 各学会研修施設認定状況

日本内科学会認定内科専門医教育関連施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本消化器病学会関連施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本呼吸器学会関連施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本脳神経外科学会専門医認定指定制度訓練施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
日本病理学会登録施設
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
日本周産期・新生児医学会周産期母体・胎児専門医研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本がん治療認定研修施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
日本口腔外科学会認定准研修施設
日本病院総合診療医学会認定施設

11 各診療科別病床数・医師数・患者数

診療科	病床数	医師数	延入院患者数	延外来患者数
内科・消化器内科	336	6	17,247	28,982
呼吸器内科		3	8,661	8,646
総合診療科		6	6	0
循環器内科		5	10,081	14,595
小児科		0	818	7,355
外科		7	11,531	14,186
整形外科		5	11,295	20,666
形成外科		0	0	202
脳神経外科		2	8,296	9,597
皮膚科		2	2,044	18,054
泌尿器科		3	4,172	13,908
産婦人科		1	3,744	8,155
眼科		2	2,790	11,649
耳鼻咽喉科		2	1,434	15,576
麻酔科		2	0	0
リハビリテーション科		1	13,495	1
心療内科		0	0	776
放射線科		0	0	1,987
歯科口腔外科		2	352	6,315
病理診断科		1	0	0
(透析)		—	368	25,280
感染症	4		0	0
研修医		11		
計	340	61	96,334	205,930

- ※ 医師数は令和 7 年 4 月 1 日現在、患者数は令和 5 年度数値です。
- ※ 総合診療科、形成外科は令和 6 年 2 月より統計開始
- ※ 総合診療科医師は気仙沼市立病院附属本吉医院と兼務。

12 救急患者数（時間内・時間外）

7,637 件（うち救急車受入台数 2,581 台）
（令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日まで）

13 分娩取扱件数

252 件（令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日まで）

気仙沼市立病院群臨床研修プログラムにおける研修施設

【管理型病院】

病 院 の 名 称	気仙沼市立病院
所 在 地	宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢 8 番地 2
病院の管理者氏名	院長 大 友 浩 志

【協力型病院】

《救急科・産婦人科研修病院》

(1) 病 院 の 名 称	独立行政法人 国立病院機構 仙台医療センター
所 在 地	宮城県仙台市宮城野区宮城野二丁目 11-12
病院の管理者氏名	院長 江 面 正 幸

《精神科研修病院》

(1) 病 院 の 名 称	医療法人 くさの実会 光ヶ丘保養園
所 在 地	宮城県気仙沼市浪板 140
病院の管理者氏名	園長 新 階 敏 恭

【協力施設】

《地域医療研修施設》

- | | |
|---------------|----------------------|
| (1) 施 設 の 名 称 | 医療法人 敬仁会 大友医院 |
| 所 在 地 | 宮城県気仙沼市三日町二丁目 2-25 |
| 施設の管理者氏名 | 院長 大 友 亮 |
| (2) 施 設 の 名 称 | 医療法人 尚仁会 森田医院 |
| 所 在 地 | 宮城県気仙沼市八日町一丁目 4-1 |
| 施設の管理者氏名 | 院長 森 田 潔 |
| (3) 施 設 の 名 称 | 釜石ファミリークリニック |
| 所 在 地 | 岩手県釜石市大渡町三丁目 15-26 |
| 施設の管理者氏名 | 院長 関 薫 |
| (4) 施 設 の 名 称 | 気仙沼市立病院附属本吉医院 |
| 所 在 地 | 宮城県気仙沼市本吉町津谷明戸 222-2 |
| 施設の管理者氏名 | 院長 齊 藤 稔 哲 |
| (5) 施 設 の 名 称 | 村岡外科クリニック |
| 所 在 地 | 宮城県気仙沼市田中前 4 丁目 4-7 |
| 施設の管理者氏名 | 院長 村 岡 正 朗 |

臨床研修プログラム概要

I プログラムの名称

気仙沼市立病院群臨床研修プログラム

II プログラムの目的

本プログラムは気仙沼市立病院における、2年間の臨床研修プログラムである。初期研修は医師としての最初の修練の機会であり、将来の医師像を形成するうえで重要な時期である。

最近の医療に対する社会の要請は重要度を増しつつあり、大きな期待がかけられている。このような、医学・医療の果たすべき社会的役割を認識し、将来専門とする分野にかかわらず、一般的な診療において、頻繁に関わる疾病に対し適切に対処出来ることは、プライマリケアを実践するうえで一人一人の医師に課せられた義務と考えられる。

本プログラムを通して診療に必要な基本的知識・技能を習得するとともに、医師としてふさわしい倫理観・態度・習慣を身につける事を目的とする。

III 研修計画

新研修医はオリエンテーションの時期（最初の1～2週間）に、気仙沼市立病院臨床研修プログラムに示された目標を2年間で達成できるように、研修する診療科の希望を提出する。

提出された希望を、臨床研修管理委員会で協議して各研修医のローテーションスケジュールを作成する。

研修期間は2年間とし、1年次は必修科である内科（内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科）を24週、救急12週（当院では、内科、消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、脳神経外科のいずれかに所属し、4週間は救急車等により救急患者が来院した場合に直ぐ行ける体制下で勤務し、8週間は当直1回を1日とし2年間に8週相当（約40回）に換算）、外科、小児科、産婦人科、精神科、地域医療それぞれ4週（計16週）研修する。

2年次は地域医療4週、残りの48週は選択必修科又は将来専門とする診療科をローテーションする。

全体のスケジュールは研修医の希望を取り入れ、最終的には研修管理委員会が決定する。

IV プログラムの管理運営体制

このプログラムは各科指導医及び指導責任者の他に、協力型病院及び協力施設の医師、事務担当者数名を加えた、研修管理委員会において管理運営される。

V プログラム責任者及び研修管理委員会

1 プログラム責任者及び研修管理委員会委員長

星 達 也

2 研修管理委員会

委員長	副院長（消化器内科）	星 達 也
副委員長	院長（外科）	大友 浩志
委員	副院長（循環器内科）	尾形 和則
〃	整形外科科長	濱田 壮志
〃	脳神経外科科長	針生 新也
〃	耳鼻咽喉科科長	小柴 康利
〃	皮膚科科長	芳賀 貴裕
〃	産婦人科科長	西本 光男
〃	麻酔科科長	藤本 拓哉
〃	泌尿器科科長	竹本 淳之
〃	眼科副院長	村上 真之
〃	呼吸器内科科長	滝田 克也
〃	消化器内科医長	鵜浦 友輔
〃	経営管理部長	千葉 淳
〃	看護部長	水戸 恵美子
〃	仙台医療センター院長	江面 正幸
〃	光ヶ丘保養園園長	新階 敏恭
（地域医療研修施設）		
〃	大友医院院長	大友 亮
〃	森田医院院長	森田 潔
〃	釜石ファミリークリニック院長	関 薫
〃	気仙沼市立病院附属本吉医院院長	齊藤 稔哲
〃	村岡外科クリニック院長	村岡 正朗
（外部委員）		
〃	気仙沼市ガス上下水道部部長	菅原 正浩
事務局	経営管理部総務課長	佐藤 研
〃	総務課長補佐	畠山 由美

3 医師臨床研修制度対策委員会

医師臨床研修に関する総括的な事項を審査する。（基本計画や研修医の募集・採用及び臨床研修の運営に関すること）

VI 指導体制

1 指導方法

- (1) 研修カリキュラムに基づき、各診療科の指導責任者の下に指導医が指導を行う。
- (2) 研修管理委員会が半年から1年毎に研修状況のチェックを行い、研修医の目標達成を援助する。

2 指導責任者

診療科	指導責任者	職名	指導医数
消化器内科	星 達也	副院長	6 (2)
呼吸器内科	滝田 克也	科長心得	1 (1)
循環器内科	尾形 和則	副院長	5 (3)
小児科	診療応援医師	診療応援医師	0 (0)
外科	大友 浩志	院長	7 (3)
整形外科	濱田 壮志	科長	2 (0)
脳神経外科	針生 新也	科長	1 (1)
耳鼻咽喉科	小柴 康利	科長心得	1 (1)
皮膚科	芳賀 貴裕	科長	1 (0)
泌尿器科	竹本 淳	科長	2 (2)
眼科	村上 真之	副医長	0 (0)
産婦人科	西本 光男	科長	1 (1)
麻酔科	藤峯 拓哉	科長	1 (1)
救急科	江面 正幸	仙台医療センター院長	4 (4)
産婦人科	江面 正幸	仙台医療センター院長	8 (8)
精神科	新階 敏恭	光ヶ丘保養園園長	1 (1)

※指導医数は「臨床経験7年以上」の医師。() の数はそのうちの指導医講習会受講者数

Ⅶ 研修プログラムの名称及び概要（2026 年 4 月開始プログラム）

1	研修プログラムの名称	気仙沼市立病院群臨床研修プログラム	
2	研修プログラムの特色	気仙沼市立病院では地域完結型医療の実践を目指した医療を展開しています。 地域医療研修では今後の医療のあるべき方向として在宅医療を含めた病診連携に重点を置き、近隣の特色のある施設での研修を用意しています。 院内の研修においても当院は症例が豊富なので積極的に診療に関わることによって高い技術の習得が可能です。 これらにより、医師として必要な基本的知識・技能及び倫理観・態度・習慣を身につける事が出来ます。	
3	臨床研修の目標の概要	1 年目にプライマリーケアを行なうに必要な基本的診療技術や救急蘇生などを習得し、十分に救急対応が出来る事ことを目標とします。また、1 年目の 1 2 週は将来専門とする科を 1 2 週研修することも可能とし、早期のキャリア形成を積極的に援助します。 2 年目は将来専門とする科を中心に研修を行い、地域医療研修では病診連携・在宅医療に重点を置いた研修を行いその意義を習得します。 必修科の精神科は気仙沼市内の協力型病院で十分な指導が受けられるとともに、麻酔科が常勤となったことで手術症例の臨床をより深く理解出来ます。	
4	研修期間	2 年	
	備考	希望により引き続き専門科での研修が可能です。	
5	臨床研修を行う分野	研修分野ごとの病院又は施設及び研修期間	
		病院又は施設の名称	研修期間
	内科（必修）	気仙沼市立病院	2 4 週
	救急（必修）	気仙沼市立病院 仙台医療センター	1 2 週
	外科（必修）	気仙沼市立病院	4 週
	小児科（必修）	気仙沼市立病院	4 週
	産婦人科（必修）	気仙沼市立病院 仙台医療センター	4 週

精神科（必修）	光ヶ丘保養園	4週
地域医療（必修）	大友医院 森田医院 釜石ファミリークリニック 気仙沼市立病院附属本吉医院 村岡外科クリニック	4週
将来専門とする診療科 を中心に関連する診療 科	気仙沼市立病院	48週
備考 ① 内科は、内科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科を任意の期間ローテートします。 ② 救急部門研修期間は、内科・消化器内科・循環器内科・外科・整形外科・脳神経外科のいずれかに所属し、救急搬送時には迅速にこれに対応出来る体制とします。また、協力型病院で研修することもできます。 ③ 外科は任意の期間、他の外科系である脳神経外科・整形外科・泌尿器科・耳鼻咽喉科・眼科・皮膚科を研修することが出来ます。 ④ 精神科は協力型病院を4週以上研修します。 ⑤ 地域医療研修では、任意の施設を任意の期間選択し研修します。		

VIII 研修の記録及び評価方法

EPOC2（オンライン臨床研修評価システム）を利用し、研修医は各科研修終了後に、到達目標の自己評価症例などを入力する。

指導医が随時これを評価し、研修医の目標到達を確認し援助していく。また、研修終了時にはチェックリストを確認する。

研修管理委員会は到達目標達成を確認し評価する。

IX 研修終了の認定及び証書の交付

研修管理委員会が、研修医より申告された自己評価結果の点検を行い、研修の修了を認定し、修了証書を授与する。

X その他

1 研修医定員数

公募により、1年次6名、2年次6名の合計12名とする

2 公募の有無及び研修プログラムの公表方法

毎年、募集要項及びプログラムを公表し、研修医を募集する

3 マッチング参加の有無

参加する

4 研修医の処遇

身分	常勤職員（会計年度任用職員）
給与	1年次 年額 800 万円（令和 6 年度実績） 月 40 万円程度（給料+地域手当）、期末手当・時間外勤務手当等（前年度約 320 万円） 2年次 年額 960 万円（令和 6 年度実績） 月 43 万円程度（給料+地域手当）、期末手当・時間外勤務手当等（前年度約 450 万円） ※関係規定の定めによる
勤務時間	勤務時間 8：30～17：15 時間外勤務の有無 有
休暇	有給休暇 1年次 10 日 2年次 11 日 （前年残日数繰越有） 夏季休暇 有（3 日間） 年末年始休暇 有 その他 特別休暇（冠婚葬祭等） 厚生計画（2 日間）
当直	有（月 約 3～4 回）
健康保険	市町村職員共済組合、厚生年金、労働者災害補償保険（1 年目 4 月～9 月）公務災害（1 年目 10 月～）
雇用保険	1年次 4 月～9 月有、10 月以降は退職手当組合加入 2年次 退職手当組合加入
医師賠償責任保険	費用病院負担で加入
住居	病院官舎あり 不足時は病院がアパートを借り上げて対応
健康管理	健康診断 年 2 回 その他 希望によりインフルエンザワクチン・HBワクチン接種
外部研修活動	学会・研究会等への参加 ： 可能 学会・研究会等への参加費用の支給 ： 有（上限有）
被服貸与	診療衣貸与
その他	病院、協力型臨床研修病院及び研修協力施設以外において、報酬を得て診療に従事してはならない

5 研修終了後の進路

臨床研修後は、希望により引き続き専門科での研修が可能

6 研修医の応募手続き

出願締切	8 月末日
出願書類	臨床研修医採用選考申込書 1 部 履歴書（写真添付、当院所定の様式）1 部
選考方法	面接による
選考日	ホームページ掲載 ※マッチングの日程により変更する場合あり
資料請求先	〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢 8 番地 2 気仙沼市病院事業局経営管理部総務課 担当：畠山 T E L 0226-22-7100（内線 5204） F A X 0226-22-3121 Email hs-somu@kesennuma.miyagi.jp

令和 年度 臨床研修医採用選考 申込書

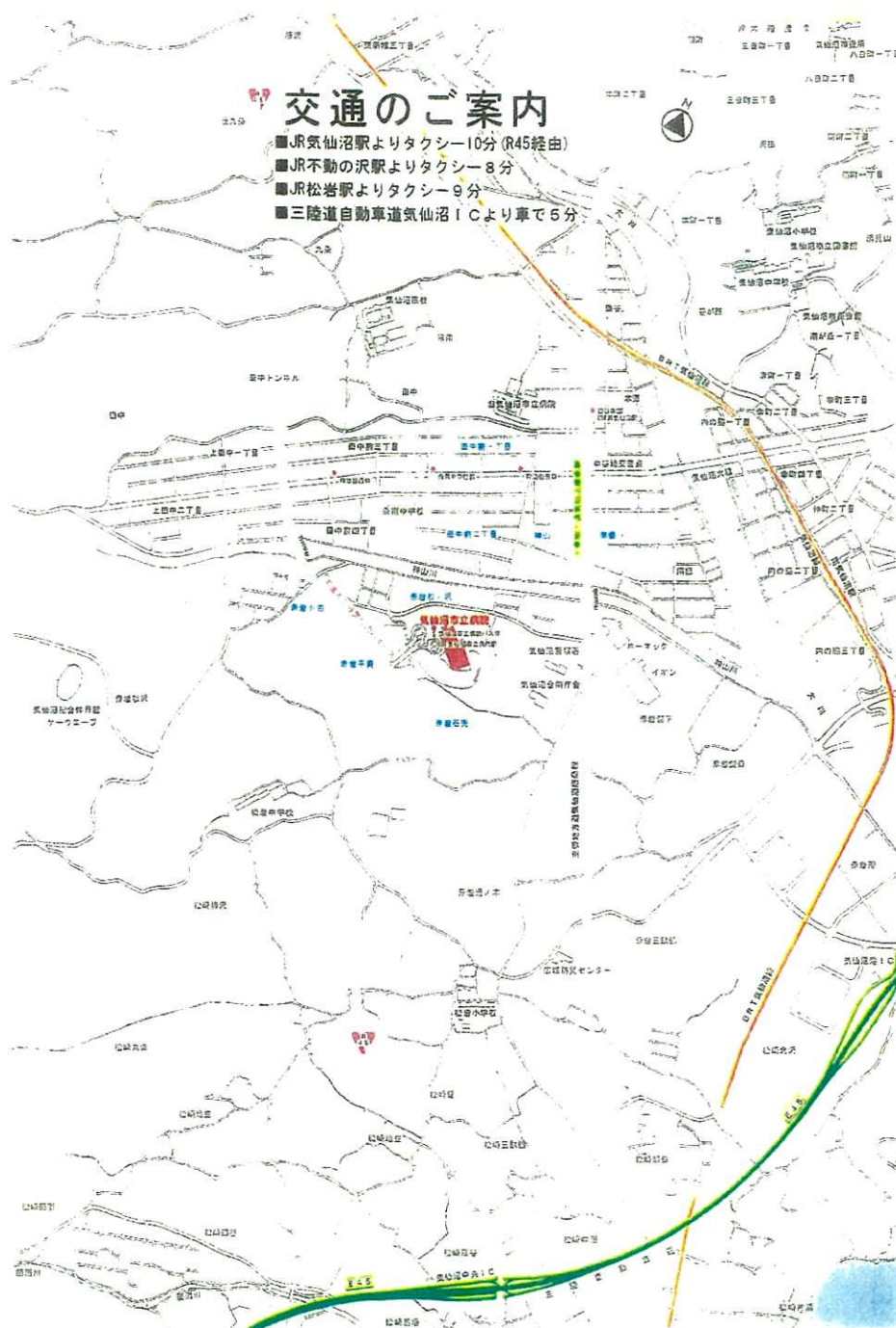
令和 年 月 日

院長 大 友 浩 志 様

氏名

私は、貴院において臨床研修を行いたく、関係書類を添えて申し込みいたします。

ふりがな	
氏名	男 ・ 女
生年月日	年 月 日 生 歳
現住所	〒 TEL 携帯 Email
連絡先	〒 携帯 Email
出身（予定）大学名	



気仙沼市立病院

〒988-0181

宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢8番地2

T E L 0226-22-7100 (代)

F A X 0226-22-3121

E-Mail hs-somu@kesennuma.miyagi.jp

U R L <http://www.kesennuma-hospital.jp/>